石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

「経営の未来」学ぶ

情報マネジメント学科新設へ

ブランド形成図る

昨年、創立30周年を迎えた石巻専修大学は、次の10年を見据えた改革の第一歩として、経営学部を2学科体制にする。これまでの経営学科に加え、情報資源を利活用する情報マネジメント学科を新設することで、地域社会を支える大学としてのブランド形成を図る。2021年4月の開設を目指し、今年4月に文部科学省に設置届け出を行う。

構想中の情報マネジメント学科では、学生一人一人の将来を踏まえた学習計画を作成し、情報システムやビジネスマネジメントについて学習する。併せてデータの活用方法などを学び、論理的思考力を養っていく。今後到来する超スマート社会（ソサエティ5・0）が人々の暮らしや働き方を大きく変えていくことを念頭に、知識の習得にとどまらず、データ分析やロジカルシンキング（論理的思考）などを取り入れた総合的な教育を行う。

同学科が用意する履修モデルは2種類。「ビジネスデータ」モデルではデータに基づいたビジネスを展開するための方法について、「ビジネスデザイン」モデルでは情報技術を元に新しいビジネスを提案するための方法について学ぶ。習得した知識や技術は学生参画型のゼミを通じて、より実践的な形に磨いていく。

経営学の知識に加え、ITや統計解析に関する高度なスキルを駆使して活躍できる創造的な人材の育成を目指す。

1月27日に開催された石巻圏域首長・議長懇談会の中で尾池守学長は、「社会のニーズに合わせた教育課程の再編が必要。情報のどこに意味があるのか見いだせる学生を育てたい」と述べた。

工藤周平准教授（左から2人目）の指導で経営情報システムを学ぶ

食肉加工場と卸売市場見学

食環境学科

理工学部の坂田隆教授と食環境学科の1、2年次生29人が2月4日、宮城県東松島市にある石巻青果花き地方卸売市場と㈱オイタミートを訪れた。

食に関わる企業や生産現場などを見学し、実践的な知識や技術を学ぶ「食環境見学」の一環。

最初に訪れた石巻青果花き地方卸売市場では、担当者から卸売市場の役割などについて説明を受けた後、市場内を見学。臨場感あふれる場内の雰囲気を体感した。質疑応答の時間には学生から多くの質問が挙がった。

午後は、主に豚肉の加工を手掛けるオイタミートを訪問。ここでは半身の枝肉の状態から袋詰めされるまでの全工程を見学した。

枝肉から骨や脂肪を取り除く熟練の包丁さばきに学生は圧倒されていた。藤本凜さん（2年次・福島県会津学鳳高）は「現場を見る機会が得られて良かった」と初めての体験を語った。

昨年も「食環境見学」に参加した加藤清楓さん（2年次・岩手県金ケ崎高）は「前回の魚市場に続き、今回は青果と食肉加工の現場を実際に見て、知見が広がった」と話した。

石巻青果花き地方卸売市場で説明を聞く学生

2019年度学位記授与式

日時：3月20日（金・祝）10時30分開式
会場：本学体育館
※式終了後、「卒業を祝う会」（同窓会・育友会共催、14時～、石巻グランドホテル）を開催。

経営・工藤ゼミがロボット教室開催

本学が取り組む高大産連携プロジェクトの一環として、経営学部の工藤周平ゼミと富士通コンピュータテクノロジーズの元社員有志が立ち上げた「家族ロボット教室の会」が連携し、親子を対象にした「家族ロボット教室」を1月25日、宮城県東松島市大曲市民センターで開催した。

東松島市での開催は、昨年度に続き2回目となる。

今回の教室には市内の小学3～6年生とその家族28組が参加した。参加者は自立型ロボット「教育用レゴマインドストーム」を組み立てた後、指示通りにロボットを動かすプログラミングに挑戦した。

製作したロボットの走行レースや修了証書の授与も行われ、子どもからは「プログラミングは難しかったけれど楽しかった」などの感想があった。

工藤ゼミからは瀬ケ沼翔太さん（2年次・宮城県古川黎明高）らがトレーナーとして参加。前回に続き、ロボット作りの指導にあたった安田凱智さん（2年次・岩手県福岡高）は、「イベント全体への目配りができるようになるなど、自身の成長を実感できる一日となった。工藤ゼミでの学びは社会に出た際に必ず役立つ。将来を見定めつつ研究を深めていきたい」と今後の目標を語った。

ロボットの組み立てを指導する瀬ケ沼さん

4年次生に聞く

卒業を間近に控えた人間学部の4年次生2人に、大学生活や就職活動を振り返ってもらった。

地域への貢献を目指す

人間文化学科　千葉美沙季さん

高校時代から関心のあった地域社会について学びたいと人間文化学科に進学。幅広い学びを通じて、自分のやりたいことを必ず見つけられるところが人間文化学科の魅力です。

卒業研究では自治会の機能に着目し、人口減少などの課題を抱える地域社会に関する考察を試みました。

就職活動で最も苦労したのは面接対策。3年次に参加した就職合宿では全くうまくいかずに危機感を覚えました。

そこで進路支援室のサポートを受け、面接練習に力を入れました。苦労した分、内定をもらった際は大きな達成感を得ることができました。

入学当初は人見知りで内向的な性格でしたが、学科での学びや就活での経験を経て行動力が身につき、コミュニケーション能力も向上しました。

内定先の日本郵便はまさに「地域に貢献できる企業」。大学で学んだことを生かし、地域とそこに暮らす人々のために働きたいと思います。

（宮城県岩ケ崎高、内定先＝日本郵便）

幼少期からの夢を実現

人間教育学科　遠藤　楓さん

保育と幼少教育全般について学べる人間教育学科。座学に加えて実技の授業も充実しており、「器楽演習（応用）」などが特に印象に残っています。

この4年間で、保育・教育現場での実践力を高める機会にも恵まれました。3年次には保育実習や幼稚園実習に参加したのですが、初めての現場ということもあって反省点ばかり。

しかし、さまざまな学びの中で、その経験を生かし、4年次の実習では子供たちに音楽の楽しさを伝えることができました。実習先の先生方にも褒めていただき、自信になりました。

実習を通じて強く感じたのは、現場では教養と保育両方の知識が必要だということ。就職活動時には、それらを身につけるための勉強会を新福悦郎教授に開いていただきました。

親身になってご指導くださった多くの先生方に支えられ、「幼稚園教諭になる」という子供の頃からの夢をかなえることができました。

（宮城県石巻北高、内定先＝はなぶさ幼稚園）

石巻高で交流授業

交換留学生

中国の温州大学からの交換留学生である婁開賛（ろうかいさん）さんと祁鑫鐸（きさんたく）さんが1月23日、宮城県石巻高校で交流授業を行った。

2人は写真や映像を交えながら、中国文化や中国の高校生活などを英語で紹介した。

高校生からは「話を聞いて中国に行ってみたいと思った」などの感想が寄せられた。

この授業は、国際交流センターが交換留学生との交流を通じて、中国や中国人への理解を深めてもらうことを目的に初めて企画したもので、今後も開催を予定している。